



Green(グリーン)通信 委員会報告

子どもたちに生きる力を!

2号

第2回 講演会 子ども達の手で安全マップを!

開催日: 2007年1月14日 場所: 中央公民館 主催: グリーン委員会 講師: 小宮信夫 司会進行: 木戸あきら、寺島 誠



小宮氏の犯罪理論を熱心に聞き入る参加者の皆さん。予想を超え150余名が参加くださいました。

中央公民館でグリーン委員会主催にて、「子どもたちに生きる力を!」の第二回講座「子ども達の手で安全マップを!」の講演会を開催しました。この日の講師は「犯罪は『この場所』で起る!」の著者である、小宮信夫先生。テレビにも多くご出演されている小宮先生の新しい犯罪理論と、それに基づく安全マップを子どもたちが作成することにより、地域の連帯にたいへん役立っていることを教えていただきました。

犯罪の焦点を人から場所へ

不審者の定義はいまいです。犯罪者の見かけは一般人と明確に区別できないわけですから、誰が不審者だろうかとか「人」に焦点を絞る犯罪予防策では、効果がありません。人が犯罪に及ぶ場所には共通の条件があります。「入りやすく、見えにくい場所」であることです。多くの犯罪はこの場所で行って起っています。そこで考案されたの

奈良女児誘拐殺害事件で、加害者はまず八尾市で子どもを物色しましたが見つからず奈良市に戻ったといわれています。興味深いことは、八尾市では入りやすくて見えにくいという二つの基準を子どもに教え、子ども達自身による安全マップづくりが推進されているのに対して、奈良市では不審者マップや犯罪発生マップが大人によって作られていることだと小宮氏は指摘されていました。被害防止に効果的な地域安全マップ



T V番組にも多くご出演の「犯罪は『この場所』で起る!」の著者 小宮信夫氏

宮崎勉が少女を誘拐した場所は、保育所の前でした。その保育所はビルの一階にあって、入り口は薄暗く・ゆるゆる入りやすく見えにくい場所でした。残念なことに犯罪後もこの場所は何の手も加えられていません。つまり人に着眼した古い犯罪予防論から抜け出せないでいるわけです。

自治体の取り組みで 結果は変わる

「犯罪は『この場所』で起る!」の著者 小宮信夫氏

「子ども達に生きる力を!」の制作・・・多くの自治体で採用され始めているものの、大阪はまだまだ遅れているそうです。木戸議員は平成17年6月議会会で安全マップ作成の授業化を訴えましたが、採用に至りませんでした。子どもたちに生きる力を!の前に、大人たちの判断、実践力を回復させることも大切だと痛感した次第です。

我唯知足

虐待にしても、いじめにしてもそのメカニズムを知ることが大切ですが、同時に対処療法的なやり方ではなく、根本治療しなければ解決はしません。根本的に何を変えるのか大人たちが子どもに対する認識を変えることも子ども達は皆良き良いかと思っと思っています。このご時代の変遷に関係なく普遍です。しかし子どもを取り巻く環境は毎日激変し、情報過多の世界にあって知識の集積は出来ていますが、子どもが自身自身のことを見つめる機会がなくなりました。その上私たち大人は子どもの良き子が持つ本質的なよさを壊してしまいました。大人の尺度での「いいところ」「悪いところ」の判別よりもそれらを含めた「固有の当たり前の良さ」を認めてみたら、子どもを愛する大人の視点を定める。ここから我々大人は再出発するべきなのかもしれません。 : : : (このことを)と集中心、その子を持つ

木戸あきら



わがまちでも「安全マップ」作成入りわがまちでも「安全マップ」授業に取り入れて